

もしもお子さんが

読みが苦手かも？ 書きが苦手かも？ 計算が苦手かも？

と思ったら・・・

このようなことに困っていますか？（一例）

<読み>

- 文章をスムーズに読むのが難しい。
- 一文字ずつ読む。まとまりの捉えが弱い。
- 読み飛ばし、読み間違いがある。
- 自分では読みたがらず、読んであげると理解できる。 など

<書き>

- 黒板の字や教科書を書き写せない、または、書き写すのに時間がかかる。
- 鏡文字や書き間違いが多い。
- ひらがなやカタカナ、漢字が覚えられない。 など

<計算>

- 簡単な数字、記号がわからない。
- 繰り上げ、繰り下げの筆算が苦手。
- 図形やグラフが苦手、理解できない。 など



「知的発達 は年齢相応ですが、読み・書き・計算など、特定の学習だけが極端に苦手な状態*」なのかもしれません。「努力が足りない」とか「やる気がない」といったことではありません。また、「いつかできるようになるだろう」と様子を見たまましているとお子さんの学習意欲の低下に繋がる可能性があります。

お子さんによって、1つだけ苦手な場合もあれば、複数が重なっている場合もあります。

*医学的なアドバイスや診断等は、医療機関となります。

子供一人一人に合わせた、いろいろなサポートが考えられます

<読み>



- ・音読が苦手。
- ・一文字ずつ読む。
- ・小さい文字(「っ」など)が苦手。
- ・文字を音にできない
- ・似ている文字がわからない。



- ・マルチメディアデージー教科書(音声付き電子教科書)で音声で聞く。(学校から申請可能)
- ・読んでいる行だけを強調できるように定規や補助具を使用する。



<書き>



- ・文字が書けない。
- ・文字が写せない。
- ・鏡文字を書く。
- ・書くのに時間がかかる。



- ・マス目の大きなノートを使う。
- ・鉛筆に補助具を使用する。
- ・板書を写真に撮る。
- ・ノートの代わりにタブレットやパソコン入力(音声入力やタイピング)にする。



<計算>



- ・算数の記号がわからない。
- ・数の大小などの概念が苦手。
- ・繰り上げ・繰り下がりができない。



- ・指の代わりにブロックやおはじき、10玉そろばんなどを使う。
- ・電卓の使用許可。
- ・九九表を手元に置く。



サポートを受けるということは、大切な「メガネ」を見つけること

視力の弱い人がメガネをかけるように、「その人に合った道具」が必要です。それを使うことが特別扱いではなく、みんなと同じスタートラインに立つための大切な「道具」となるでしょう。お子さんが躊躇せず、使用できるように周囲の理解も大切です。

いろいろなサポートの方法がありますが、必ずしも全てがお子さんに必要かどうかはお子さん本人の気持ちも重要です。学校と家庭で情報共有しながら一緒に歩みを進められると良いでしょう。

お子さんのことで気になることがあれば学校の担任の先生や各学校にいる特別支援教育コーディネーターへご相談ください。

ご希望があれば学校で話し合ったり、他機関と連携を図ったりします。



学校での支援については「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、学校と支援方法について一緒に考えていきましょう。

